

Minami Kyushu University Syllabus

| シラバス年度 | | 2024年度 | 開講キャンパス | | 開講キャンパス | 開設学科 | | 子ども教育学科 | | | |
|------------|--|---|---------|--|---------|------|--|---------|--------|--|---|
| 科目名称 | | 幼児体育 | | | | 授業形態 | | 演習 | | | |
| 科目コード | | 750079 | 単位数 | | 2単位 | 配当学年 | | 2 | 実務経験教員 | | ○ |
| 担当教員名 | | 宮内 孝 | | | | | | | ICT活用 | | ○ |
| 授業概要 | | <p>この授業は、幼児期の運動遊びの重要性の理解を深めるとともに、子どもが楽しく取り組める運動遊び教材を工夫したり、その教材を用いた運動遊びの展開ができる実践力を養うことを目的としています。</p> <p>幼児期は、子どもが主体的に運動遊びに取り組みながら、基本的な動きを多様に身につけることが重要です。子どもの発達段階を見極めて、子どもがやりたいと思えるような運動遊びの教材を工夫する視点を学びます。そして、それを用いた模擬授業を行います。</p> <p>授業者は、小学校教諭として体育授業はもちろん他教科の授業実践にも取り組んできました。この実践を通して得た知見を、特に教材の工夫や模擬授業の指導に活用して、本授業の学修が深められるようにします。</p> | | | | | | | | | |
| 関連する科目 | | 発達心理学Ⅰを事前に受講しておくことが望ましい。履修後は、体育を履修することが望ましい。 | | | | | | | | | |
| 授業の進め方と方法 | | この授業では、アクティブラーニングの手法を取り入れながら運動遊びの教材の工夫を行います。そして、その教材とICTを用いた模擬授業とその実践後の振り返りを通して、主体的に学ぶようにします。 | | | | | | | | | |
| 授業計画【第1回】 | | 第1回 オリエンテーション・じゃんけん遊び じゃんけんを用いた姿勢変化・バランスをとる動き・移動する動きを高める運動遊びに取り組ながら、遊びの提示・させ方を学びます。 | | | | | | | | | |
| 授業計画【第2回】 | | 2. 遊具を使った身体活動 棒・リングをつかった遊び 棒・リングを用いた姿勢変化・バランスをとる動き・移動する動きを高める運動遊びに取り組ながら、遊びの提示・させ方を学びます。 | | | | | | | | | |
| 授業計画【第3回】 | | 3. 遊具を使った身体活動 なわをつかった遊び なわを用いた姿勢変化・バランスをとる動き・移動する動きを高める運動遊びに取り組ながら、遊びの提示・させ方を学びます。 | | | | | | | | | |
| 授業計画【第4回】 | | 4. 走・跳の身体活動・模擬授業の進め方 走る、跳ぶ動きを通して姿勢変化・バランスをとる動き・移動する動きを高める運動遊びに取り組ながら、遊びの提示・させ方を学びます。 子どもへのかかわり方や教材の工夫の視点について学び、次時からの模擬授業で用いる教材やICT活用の工夫や指導の流れを考えます。 | | | | | | | | | |
| 授業計画【第5回】 | | 5. 遊具を使った身体活動 模擬授業1 前半グループ 工夫した教材を用いた模擬授業とその振り返りを通して教材の工夫のあり方や子どもへのかかわり方について学びます。 | | | | | | | | | |
| 授業計画【第6回】 | | 6. 遊具を使った身体活動 模擬授業2 後半グループ 工夫した教材を用いた模擬授業とその振り返りを通して教材の工夫のあり方や子どもへのかかわり方について学びます。 | | | | | | | | | |
| 授業計画【第7回】 | | 7. 遊具を使わない身体活動 ごっこあそび ごっこ遊びを通して姿勢変化・バランスをとる動き・移動する動きを高める運動遊びに取り組ながら、遊びの提示・させ方を学びます。 | | | | | | | | | |
| 授業計画【第8回】 | | 8. 遊具を使った身体活動 ボール遊び ボールを用いた姿勢変化・バランスをとる動き・移動する動きを高める運動遊びに取り組ながら、遊びの提示・させ方を学びます。 | | | | | | | | | |
| 授業計画【第9回】 | | 9. 遊具を使った身体活動 マット遊び・バルーン遊び マット遊びやバルーンを用いた遊びを通して姿勢変化・バランスをとる動き・移動する動きを高める運動遊びに取り組ながら、遊びの提示・させ方を学びます。 | | | | | | | | | |
| 授業計画【第10回】 | | 10. 遊具を使った身体活動 マット遊び・ 小学校体育で取り上げるマット運動の技との類縁性について理解を図りながら、その類似の運動遊びの仕方について考えます。 | | | | | | | | | |

| | |
|-----------------|--|
| 授業計画【第11回】 | 11. 遊具を使った身体活動 跳び箱遊び・リズムダンス それぞれの動きのスポーツ技術への発展と、つまずきへの指導の仕方を学びます。 |
| 授業計画【第12回】 | 12. 遊具を使った身体活動 鉄棒遊び・パルン遊びの模擬授業 それぞれの動きのスポーツ技術への発展と、つまずきへの指導の仕方を学びます。 |
| 授業計画【第13回】 | 13. 遊具を使った身体活動 鉄棒遊び・パルン遊びの模擬授業 鉄棒運動や縄跳の動きの系統性を踏まえてつまずきへの指導の仕方とパルン遊びの模擬授業を行います。 ¹ |
| 授業計画【第14回】 | 14. 子どもが喜ぶ遊びを使った模擬授業 今まで学びを活用して、幼児を対象とした運動遊び教材を工夫して、模擬授業に取り組みます。 |
| 授業計画【第15回】 | 15. 子どもが喜ぶ遊びを使った模擬授業 今までに習得した学びを生かして、子どもが楽しくできる遊びを教材化して、それをを用いた模擬授業を行います。 |
| 授業の到達目標 | 1. 幼児期の心身の発達段階に即した教材の工夫ができる。 2. 幼児期の子ども即した遊びの提示の仕方や指示や賞賛をしながら、学生を対象とした模擬授業ができる。 |
| 学位授与の方針(DP)との関連 | 1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1) / 1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2) / 3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(1) |
| 授業時間外学習【予習】 | 授業中に次の時間の学習内容について提示します。その学習内容について、調べておいて下さい(1時間)。 |
| 授業時間外学習【復習】 | 授業後は、授業で提示した教材と関連した教材を文献などで調べておいてください(30分)。 |
| 課題に対するフィードバック | 模擬授業実施後には、個別に口頭で解説をします。 |
| 評価方法・基準 | 授業計画の作成・発表30点・模擬授業50点 |
| テキスト | 必要に応じて資料を配付する。 |
| 参考書 | 前橋明 『幼児体育 基礎理論と指導の方法』 2022年 (樹村房) |
| 備考 | |